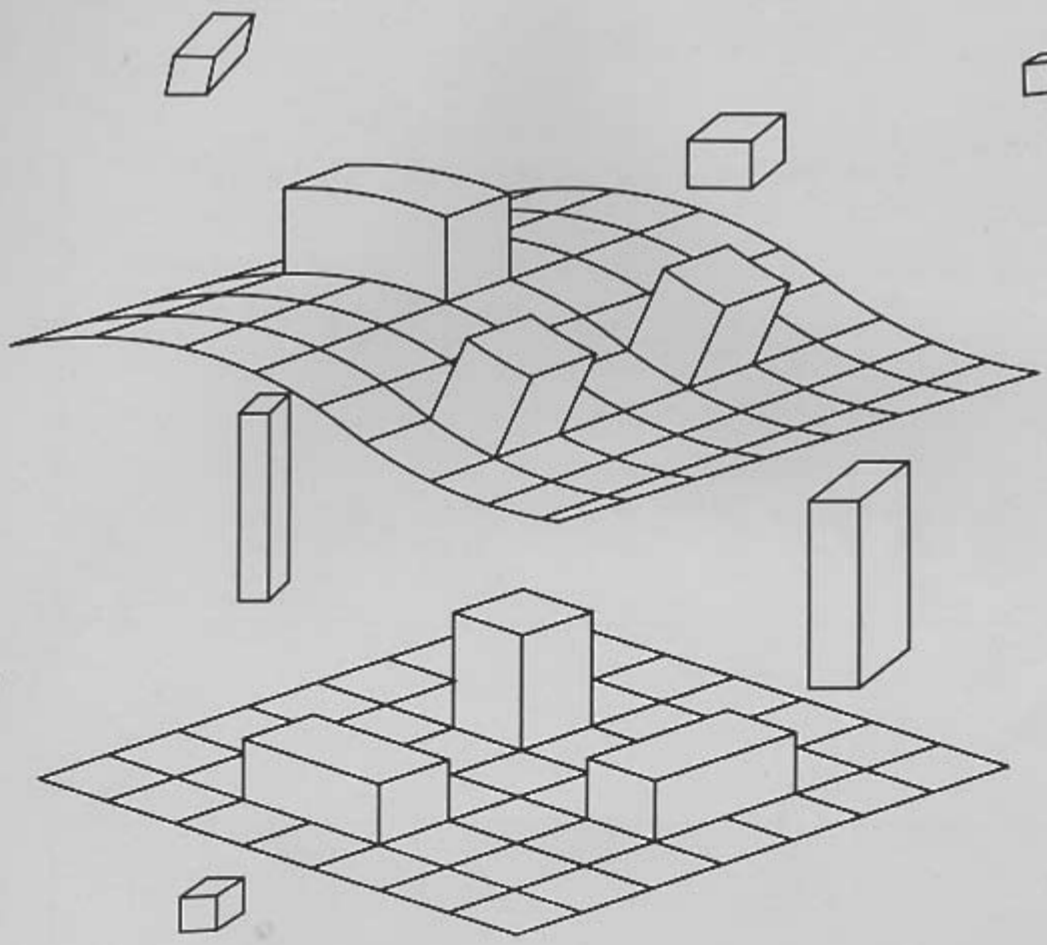
NO.19
平成4年度版



ITSUMIKAI

広島工業大学建築学科同窓会……五三会

目　次

ごあいさつ……2
ＯＢだより……5
ＯＢだより(近畿支部)……12
在学生だより……14
報告……16
第17回コンペ入選発表……18
第17回コンペ審査講評……21
第18回コンペ作品募集……23
建築学科ゼミ紹介……24
平成３年度卒業予定者一覧表……26
広島工業大学建築学科教員及び非常勤講師名簿……28
母校キャンパス案内……29
第24回(平成４年)総会のお知らせ……31
五三会活動報告……32
五三会収支決算報告……33
五三会会則……34
五三会第19号(平成４年度版)スポンサー一覧……36
編集後記……38

ごあいさつ

顧問あいさつ

五三会顧問　椋　代　仁　朗

1992年、申年の新年を迎え、五三会の皆様方には益々ご健勝にて、ご活躍のことと存じます。

さて、私ごとになりますが、本学に在籍してから、はや二年目が経過しようとしております。初年度（1990）には広工大を主会場として日本建築学会大会を開催致しました。幸い多方面からの絶大なご協力、ご支援を賜り、お蔭様でその名を全国に広めることが出来ました。二年目（1991）には、主任教授を拝命し、曲がりなりにも無事任務を遂行している状況です。とくに昨年は国内外の情勢が目まぐるしく変化した年であり、未だ止むところがありません。国外では、多大の犠牲と悲劇を巻き込んだ湾岸戦争のぼっ発、ソ連邦国家の崩壊、国内では豊かさに溺れたバブルの崩壊、人間としての価値感覚の麻痺等々、それらの皺寄せは、地球の自然環境、人類の社会環境の破滅へと及びつつあります。いずれ、これらの波及効果は、建築界にも及び、無関係ではありません。まさに壬申は、過去の壬申の乱にもみられるように、我々の周辺をも巻きこんだ波瀾万丈の年になるかもしれません。

一方、目を本学に向けますと、1991年は大学創立30周年の意義ある年でありました。また、建築学科においても、近々設置30周年を迎えようとしております。現在、建築学教室と五三会とは互に協力して意義ある30周年記念事業の企画を進めております。いずれ皆様方にも、その折は何かとご協力、ご支援をいただくことになると思います。

また、高等教育改善を目的とした大学設置基準の大綱化が昨年７月から施行され、大学は独自の特色を持ち、それに対する自己責任を担った運営を迫られております。と同時に、大学進学者層の激減期を真正面から受けることになります。この様に、大学運営は一つの大きな曲がり角を迎え回避できそうもありません。我々はネガティブに受け止めることなく、前向きに姿勢を立て直して立ち向う努力が必要と思っております。なにどぞ、皆様方の母校に対するご理解と、ご支援をお願いする次第でございます。最後に各位の益々のご多幸、ご発展をお祈り致します。

会長あいさつ

五三会の皆さんへ

五三会会長
三　上　明　夫（44年卒）

五三会の皆様、お元気ですか。各分野で、ご活躍のことと推察いたします。

早いもので、卒業してから24年目を迎える訳ですが、振り返ってみますと時の流れは、光陰矢の如し、少年老い易く、学成り難し、の言葉通り歩いて来た道程のなんと未熟であることかと痛感させられます。

1945年８月15日から47年の経過は、世界の情勢を大きく変えてまいりました。武力示威又は行使による勢力範囲の拡大は、終りを告げ、それに替って経済競争が舞台となりました。敗戦によって、完膚無きまでに武力による植民地政策を叩き潰された日本国は、半世紀に近い時の流れを、経済競争の渦に巻き込まれながら、追いつけ、追い越せの頑張りで今日のポジションをインターナショナルに築くようになりました。

昨年は、中近東において、湾岸戦争なるものが勃発し、石油資源の浪費、環境破壊を引き起こし、内面においては、イスラエルとの根深く、長い歴史を介在させる宗教的な対立を世界に露呈するに到りました。と同時に、リーダーシップを自他共に許してきた、インターナショナル・ドリームの旗手であるアメリカ合衆国は、武力による制圧を試みたのですが、結果において、民主主義のもと、多民族国家であり、資本構造の欠陥を抱くがゆえの経済破綻を知ら示めました。

又、ソビエト連邦は、ゴルヴァチョフの掲げる、ペレストロイカ政策の途上において、その不安定さからくる経済混乱に耐えることの出来ない諸国の、連邦からの離脱、独立を契機に解体を余儀無くされ、エリツィンによる再建の努力も前途に困難な問題が山積みしている状況です。

イデオロギーと経済と自然環境とのバランスは、非常にとりにくくなっています。その最中、年頭にブッシュ大統領の訪問を受け、強い経済援助の申し入れをされた日本は、今後、世界に対してどのような形で、その役割りを果たしていくのでしょうか。

経済活動の冷え込みを懸念される中、皆様においても、一層厳しい状況でのご活躍が要求されることでしょうが、個々の成せる力は微々たるものであっても、結集されたエネルギーは侮り難いものです。

あと、850日程でアジア大会が広島の地にて開催されます。その準備に、在住する私達も頑張らなければなりません。そして、時期を同じくして、大学に建築学科が設立されて30年目を、五三会が誕生して25年を迎えることになります。椋代主任教授を初め、諸先生方と一緒になって、私達も準備を始めております。

皆様の一層のご協力、ご指導を仰ぎまして、より充実したものにしたい所存でございますので何分共、宜しくお願い致します。

新任教員あいさつ

就任ごあいさつ

教授　坂　田　　泉

平成３年４月に広島工業大学建築学科に赴任して、五三会の一員となりました。広島は郷里ですが、40年ぶりなので何もかも昔の面影は殆んど無く、生活も一からの出直しになりましたが、広島湾の西岸の生活は初めてなので、これも又新しい経験をしております。

私と広島工業大学とは不思議な縁がありまして昨日のように覚えていますのは、旧制広島高等学校時代の名物教授鈴木正利先生（通称ベーヴ先生）が仙台の私を訪ねて来られ、広島工大に建築学科を新設することになったが力になって呉れないかとの相談でした。丁度、私の指導教授飯田須賀斯先生が東北大学を定年退官されるので御紹介した次第です。このような経緯があり広島工業大学建築学科創設時の教授となられた飯田先生の跡を追って同じような道を進むことになり浅からぬ因縁と言うことになります。何はともあれ広島は郷里であり、戦後のひどい時期に青春時代を過した広島で若い学生諸君と大学生活を共にすることを楽しみにして着任しました。40年前、全く未知の仙台に暮らしたときの東西日本の生活様式の大きな相違にショックを受けたことが、この度の逆の立場となった広島で痛感しています。当時は学生として経験も浅い若造でしたが、今度は年齢的にも教師生活を重ねた者としての比較にならざるを得ず、大学の相違、生活の相違などに一驚しております。

広島と仙台は地理的にもかなり離れていて、広島工大の卒業生の活躍や業績などについては全く知りませんでしたし、現在も良く判断しかねていますので、自然に在学生（大多数は広島人）との接触からの感想にならざるを得ませんので、その点はお許しを乞う。

先ず一言で申しますと、何とたわいのない学生ばかりだなと言うこと、周囲からの言葉にもありましたが、大学ではなくて高校の延長のように思っているような言語行動、非常に強く感じていますのは、大学生としての自覚と、社会に出て活躍しなければならないとの強い自覚に早く目覚めて、大地に自分の足で立ち上って欲しい、何はともあれ良い意味の大人になって欲しいと言うことです。何はともあれ広島工大は工学の専門大学ですので、凡ゆる学問の研究分野から構成された総合大学と比較するのは無理とは思いますし、大学の悩みもあるでしょうが、大学は研究と人間教育の場であって形式的な専門技術のみを習得させる専門学校ではないことは誰も認めています。そして学生気質は広島の風土を背景にして成立したのではないかと思っています。曽て心理学者宮城音弥氏が「日本人の性格」の中で、広島県民性について、躁鬱質で勝気、特性は不誠実、派手、楽天的、不親切、すれた、とっつきやすい、情熱に乏しい、あきっぽい等々、かなり辛らつな内容ですが、40年間の空白から広島に生活して何と当てはまることと驚ろくと同時に、欠点は変じて長所としなければと痛感しています。個人的になりますが身近なところから言わせてもらえば、日常内外を問わず如何なる国でも行っている礼儀的行動の欠如が原因ではないかとも感じています。

正月の中国新聞に、地方中枢都市として札幌、仙台、広島、福岡の有識者千人を対象としたアンケート調査の分析がありましたが、広島が最も遅れているように見られました。文化人類学から言えば、一生を決定する多感な若い時代の地域的生活環境を、建築学科の学生として、振り返ってこの際に良い環境づくりに力を合わせて努力してみては如何でしょうか。

OBだより

建築設計の世界

アート設計　藤　井　秀　幸（63年卒）

外では「4年目ともなれば大体何でもできるでしょう。」と声をかけられ、内では「まあ第1段階は3～5年よの」と言われる。学生気分そのままに飛び込んだ建築設計の世界は、それは大変な所でした。(仕事は何でもそうでしょうが)

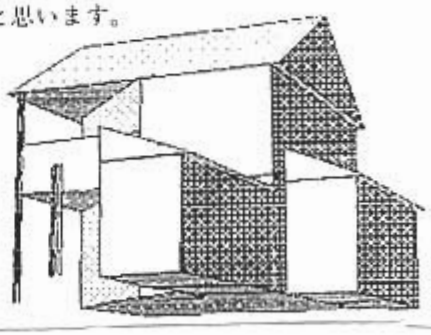
大学を出たとはいえ、ほとんど役に立たない状態であることを知り、理想から、実務という現実に引き戻され、やっぱり設計も商売なのかと思ったものでした。

そのうえ、あるときは「プロじゃけえ」といわれ、勉強しなおし、あるときは「あんたじゃあわかるまあ、先生はおらんの」と言われ、またあるときは、いくら必死で説明しても、うす笑い顔で「ハイ、ハイ」と聞き流されてしまうしまつ。設計者として必要なのは、若さと情熱ではなく、経験と押し出しの強さだろうかと菅原文太ばりに「わしゃあ広島じゃけえ」とつぶやいてしまいます。

住宅の打合せの時など、あれこれ説明を続けながら、「こんな屋根はどうでしょうか」とスタディ模型をさしだせば、「へー、こんな形ですか、いいんじゃないの」とのりも乾かぬその模型をわしづかみに手元に引きよせ、「裏の方はまだ…、そこはのりをつけたばかりで…」の思いも届かず、上下左右、ごろりごろりとながめまわし、「中は見れないの」と、固定された屋根をはがしそうになったり、透明なアクリルの棒でできた柱を、「これきれいネ」と言われたり、「まったくこのまま出来上るわけではないですよ」というのがせいいっぱいで、簡単な打合せ用にと思った模型は持って帰られ、「いい仕事ですね」と感心されるやらで、住まい方や、デザインや、色のイメージなど話をもり上げようと思いきり気合を込めて乗り込んだはずが、足元をすくわれた気持で帰ってくることもたびたびです。

バブル経済の崩壊とはいえ、急激に変化していく都市の風景や、かけ声の大きな都市開発や建築プロジェクトにはついぞ縁のない、小さな事務所での仕事ですが、大学を出た当時の、建築デザインは空間の形態や構成で人間の情緒や感覚に、ある時は大きく又ある時は静かに働きかけ、建物の用途であるとか、敷地の場所性（環境やその土地固有の歴史）から考えられていかなければ、そして、それを通して人と街と結んでいかなければという思いを、個人としての仕事のなかでも実現させていきたいと思っています。

地元での活動のなかでありながらも、声をかけていただいたＯＢの方々に、ずいぶん迷惑をおかけしたことをおわびし、また広島を活動のベースに、設計の世界で活躍されている先輩方や五三会コンペでもお世話になりました建築家の方々を目標に努力していきたいと思います。



つれづれなるままに……長崎より!!

シダ建築設計事務所
志田哲也（51年卒）

広島工業大学を卒業して、早15年が過ぎてしまいました。6年間……も過ごした広島（廿日市）の町を第二の故郷の様に感じられた時期が懐かしく思い出されます。現在同窓会の長崎県支部の幹事長に任命され、何度か本部総会に出席しましたが、来る度に変貌していく大学や、通い慣れていたはずの道が、回りの町並みの変わり様に分からなくなったりして、そのスピードの早さに驚かされるばかりでした。

11月2日、長崎県支部の総会が開催されましたおり、菅原先生より近況を書いて欲しいとのお話がありましたので、西の端「長崎」での近況を報告したいと思います。

昨年までの旅博景気でもたらされたホテル建設ラッシュやその他の建設景気も過ぎ、確認申請件数の減少でも分かるように、かなり厳しくなってきました。又、九州の核である福岡への職人の流出により単価ばかりがはね上がり、建設へのＧＯサインまではなかなか進めないという状況です。

現在、私は長崎県建築士会長崎支部理事、並びに支部青年部委員長として活動しています。特に青年部では、月に約一回の事業をこなすハードスケジュールです。活動状況をまとめて見ますと下記のようになります。

■4月16日	ホテル「カンタービレ」見学会
■5月10～11日	九州パッションin ASO参加、小国・湯布院見学会
■6月4日	研究集会長崎支部代表選考会
■6月8日	研究集会長崎県内大会
■6月22日	研究集会九州ブロック大会
■7月1日	「建築士の日」アーキテクト・ギャラリー'91
■8月24～24日	キャドセミナー及び加津佐キャンプ
■9月14日	菜の花保育園見学会
■9月26日	研究集会全国大会
■10月26日	支部主催ソフトボール大会参加

■11月８～13日　アーキテクト・ギャラリーinオータム
■11月25日　異業種交流ボーリング大会
■12月14～15日　熊本・福岡研修旅行
熊本…アートポリス　４ヶ所　熊本支部交流会
福岡…シーサイド百道、ネクサス香椎、ベイサイド

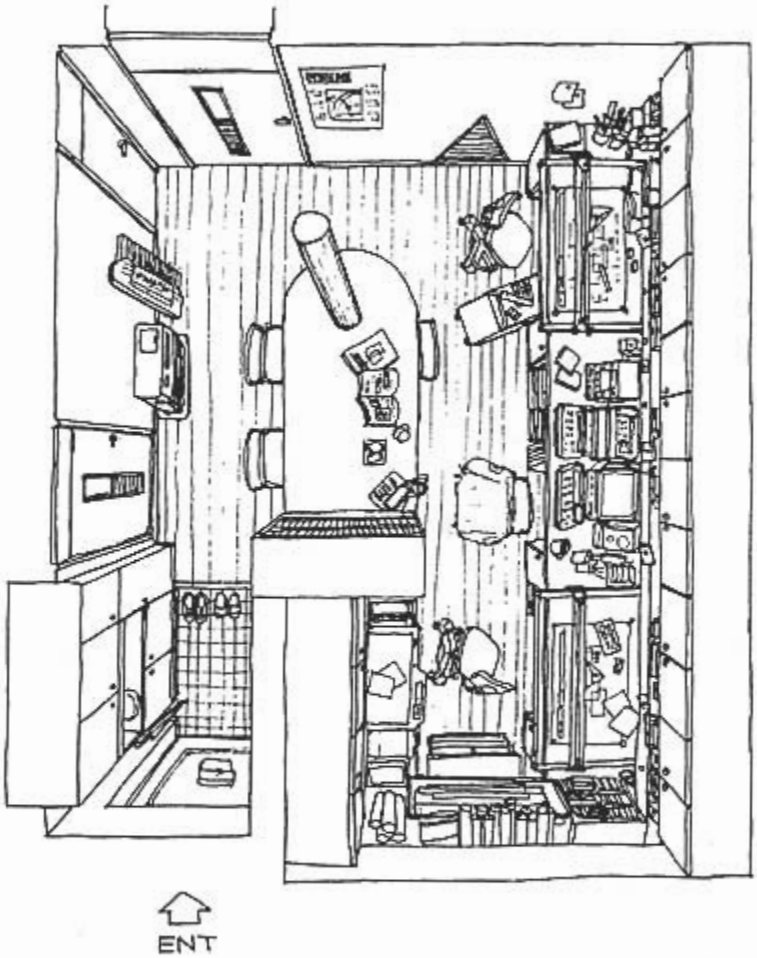
この様にいろいろな活動を進めるなか、建築士会発足40周年を来年度に迎えるため、その準備委員に任命され、仕事以外の面でかなり忙しくなるのではと危惧しております。はたまた、長崎市が開催しております「都市夢塾II」に４つの班があるのですが、これでも班長をやらされており、ますます時間調整が厳しくなってきています。しかしこの会の中で偶然にも、'91年度卒業の小倉君と知り合うこととなり、最近の工大のことを懐かしく聞いたりしております。しかし、この様に仕事以外の面で様々な人と知り合いになったり、聞く話の内容の盛り沢山なことに刺激されながら活動することによって、個人の行動範囲では得られない体験ができ、私自身としては有意義な一年を過ごせたのではないかと満足しております。五三会も、存在は知ってはいたものの、活動を知らなかった私にとっては、手にした冊子の中に書かれている諸先輩の活躍を目の当たりにして、より一層の飛躍を期して年頭の祈願にいって参りました。

私の仕事部屋

増田都市建築デザイン事務所
増　田　順　子（45年卒）

現在、夫と一緒に建築設計事務所をやっています。
子供は２人、中学２年と小学５年の女の子です。

趣味－広島西おやこ劇場（親子で演劇や音楽を鑑賞する会）の運営委員をしていて、例会の企画をすること。



顔

西原建築事務所
西　原　淳　典（56年卒）

顔、顔が在る。では、顔とは何か？と問われて、はたまた困る。『人体の一部を指す言葉。』これとて境界が定かではない。髪の毛や耳を含むのか、首はどうなのか。

私にとって顔は単なる人体の一部ではなくもっと全体的なその人の人格の象徴ではなかったか。だから、会社の顔、とか玄関は建物の顔である、といった表現が成り立つのだ。では、建物に顔があるとするならば、それはいったい誰の顔なのか？……そんな取りとめのないことを思い浮かべながら酒を酌む。この文章が皆様の目に触れるのは、桜の咲くころとなろうが、原稿用紙に向かっている今は、まだ年も明けたばかりの１月である。

私の正月の行事は、上田流茶道家元での、初釜から始まる。茶道といってもまだ駆け出しで茶の心からは程遠いが、お家元での初釜は未熟な私なりにも得るところが多い。

御点前はもとより、床の間の飾りつけや、様々な道具の取り合わせが、見事に調和している事はいうまでも無く、全てが『客をもてなす事』という第一命題を様々な手段によって具現化したものとなっている。

そこには『何とかして御客様に喜んで頂きたい』という御家元の心と人格とも呼べる顔が厳然として在った。

第一命題を『住まい手がよりよい人生を送る事。』に置き換えて、私はここまで一つの命題にこだわりを持って建築に携わっているかどうか自問すると、恥ずかしく思う。

そこで、建築には顔が在るのか？在るとすれば誰の顔なのか？といった冒頭の疑問へと思いは立ち返って行く。

残念ながら私は、いまだ顔と呼べる様なものを持った建築を作るに至っていない。いつの日か私が創れるかも知れない建築の顔は、『住まい手がよりよい人生を送る事。』という命題に沿って、住まい手の顔を具現化したものでありたいと願っている。どんなに住まい手の顔を具現化してもそれは私の解釈した住まい手の顔であり、同時に私の顔でもあるのであるから。

『土』に、『窯』に、もて遊ばれて

陶工　浜　田　伸　一（51年卒）

陶工などと称して十六年目の冬を向かえて居ります。工大卒業と同時に『やきもの』の道を歩みはじめましたが、不純な動機でこの道を選んだので、当時ゼミの水田先生には、厳しいお言葉をいただきました。後になって思うに、動機は純粋でも不純でも良い、その後どう歩んで行くかが問題だと言う事です。はじめに『土』と運命的な出逢いがあった訳でもなく、ただ生理的に僕の膚が『やきもの』を求めていました。（きっかけは、素面では語れない。）土造りやロクロの練習、温もりがまだ残っている窯の掃除をしながら、『土と出逢わなければ！』と焦っていました。放浪する様な日常の中で『土』、『窯』と出逢えるまで丸一年もかかり、ようやくスタート台に立てた時の喜びは、今でも忘れられない。

『…とかかわる』、『…と対話する』を水田先生は口癖のように言われていましたが、『…を造る』は、かかわり方の表現そのものなんですね。まだまだ『土』と対話するほどその整理も摑みきっていない。

ある窯焚きの夜中に、双眼鏡で月をそっと覗きました。ピントを合わせて月のクレーターを確認した時、一瞬の恐ろしさに血の気が引き、全身に鳥肌が立ったのを覚えています。この世に『僕』と『月』だけが対峙して、太陽光に照らし出された月は、大気をまとわぬ生めかしい妖女のようで、無防備な僕は瞳孔を全開にしていました。『土』を虫メガネで覗いて観ると妖女が居るのか淑女が居るのかー。掌にのっかる酒呑（ぐいのみ）にさえ宇宙の景色が観えます。膨脹したり、収縮したり不安定な宇宙です。『窯』は宇宙の小さな呼吸と『火』を利用して『土』を『石』（のようなもの）に変えてしまいます。限られた種類の土器を除いて、やきもの造りには『窯』が必要ですが、その有機的な姿もさることながら、『窯』は単なる土を焼く為の道具とは思えない。（宇宙の小さな呼吸を利用するからこそ、有機的な姿に出来あがった。）『窯』を焚く。はじめは余裕をもって『火』を抑えている。徐々に正面きって攻めてゆく。気づくと『窯』に焚かれている。最後にはふり回されて、もて遊ばれて終わります。『窯』には妖女が潜んでるみたいです。いや妖女そのものと言うべきでしょうか。

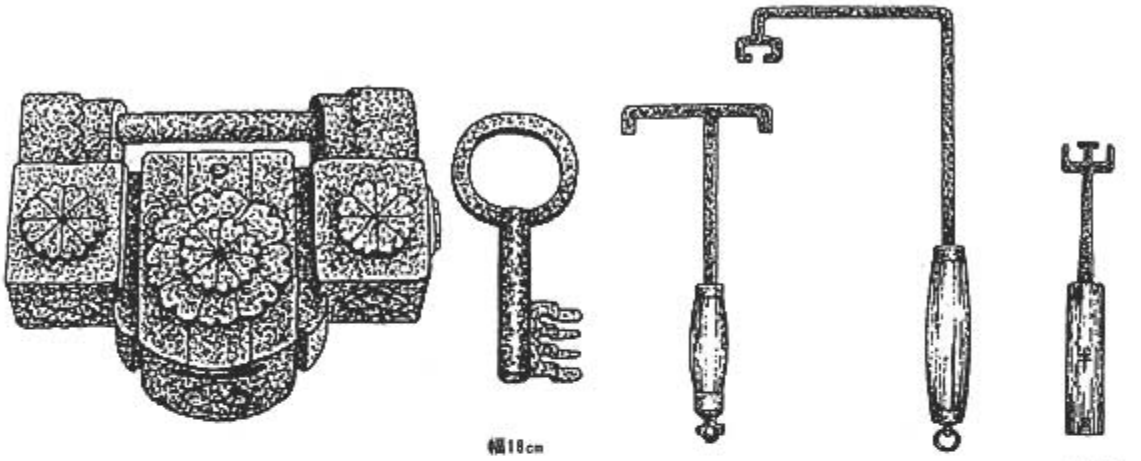
僕は『土』を『石』（のようなもの）に変えるだいそれた事を生業としていますが、『壊す』が大前提の『建築する』を生業とされている皆様もまた、だいそれた事をしているのかも知れませんね。

人類が『火』をわがものとしたときから、核時計の歯車が動きはじめた。僕達は、地球を食って太り、排泄物で地球の穴埋めをして、埋めきれなくなった排泄物にまみれて死んでゆくのか。やれやれです。

マイコレクション

錠と鍵のしくみ

カトウ建築設計
所長　加　藤　早　苗（45年卒）



江戸時代後期の土佐錠
鍵穴が隠されていて、５段階の操作を経て開錠

江戸時代の土蔵用の鍵

卒業して23年目の今

住宅・都市整備公団 関西支社
伊東　公（44年卒）

『405019』これが小生の学生番号でした、今でも何故か記憶しています。それは～、多分最後の19という番号が「十八番」のネキストということで、気に入っていたせいかも知れません。

卒業して現在の住宅・都市整備公団に入り、今は関西支社の建築課長として暗躍（？）しています。仕事の内容は、設計企画とその設計及び積算アンド職場での夜の付き合い（コレが一番大切カナ？）です。

さてさて、バブルの崩壊と地価の下落傾向に伴う住宅需要の沈静化で、住宅の商品コンセプトワークが以前にも増して一層重要になって来てます。（イヤ、ホント！）

本来住宅というものは、施主の希望を入れた注文住宅であるべきですが、「建売り」の場合（賃貸でも分譲でも）建ててから販売しますので、そうは問屋がおろしてくれません。モチロン、うちの制度の中にもコーポラティブ方式とかハウスプラン選択方式とか注文住宅に近いものもあることはありますケレド。数年前までの公団は、数量的に分析出来ることを設計要素にしていました。マ～、例えば30代夫婦と男女中学生の４人家族の方の場合、子供の成長を考慮しても約80m²の３ＬＤＫであれば納得して戴ける、というふうに考え、設計していました。

デモ、今は同じ家族構成でも、その家族の住宅観とか、なにを大切にするか、早～い話がその家族の住宅に対する哲学によって全く異なる住宅プランや面積になる訳です。マ～、いわゆる住宅の戦後「量の時代」から「質の時代」を経て今は「味の時代」とか言われています、小生はその次に来るのは多分「香りの時代」ではなかろうかと思ってます。

この『味の時代』の設計手法として、公団では昭和62年からライフスタイル分析の研究を本格的に開始して、主要なプロジェクトにはこの研究成果に従って設計をしています。これは、『ライフスタイル』（生き方であり、生活観であり、この場合住宅観ともいうべきものカナ）と『ライフステージ』（子育て時代とか夫婦のみの時代とか、その家族の年代的変化）との組み合わせで『10のクラスター』を設定し、各『クラスター』毎の住宅コンセプトに従って設計する手法です。公団のユーザーストックとしての『カルガモ・クラブ』の会員にアンケート調査をして地域別・沿線別に、先程説明したクラスター別の希望する方の割合を把握していますので、立地に合わせた設計が行えるストーリーになっている訳です。

少し『エー恰好』をし過ぎましたが、小生もご多分に漏れず『人手不足』と『酒の飲み過ぎ』に参っています。どちらにしても元気が一番！デスネ。（イヤ、ホント）

"火に強い木・鉄よりも強い木・条件を整えてやれば鉄やコンクリートよりも耐久性のある木"

大建工業㈱　西　矢　正　一（45年卒）

建築物の構造材としての木材は、以上の様な特徴を保持しているにもかかわらず、我国においては、階数で3階以上は一般的ではなく、最近になって簡便な構造計算で3階建の戸建住宅が建設可能となっています。

しかし、海外、特に北米では木造で3～5階建てのコンドミニアムや、集成材を使って大空間建築施設がすばらしいデザインで設計・建設されています。

'92年度の4月には、木造（2×4工法）3階建での共同住宅の建設が可能になる様子。うがった見方をすれば、日米貿易摩擦の解消の副産物と言えなくもないが、兎にも角にも木造の建物が見直され、設計の自由度が増したという点、社会人となって木材および木造の建物に親しんで来た私にとっても朗報。

終戦後、建設コストという理由で全国各地に木造の賃貸住宅――木質住宅が無計画に近い形で建設された結果、ここに来てこれらが、都市環境の悪化・非経済的・耐久性という名目で、木造以外の構造物に建て替えられているのが現状です。

この現象に歯止めをかけて、木造の3階建共同住宅が社会的に評価を受けるかどうかは、今後の経過を待たねばならぬが、過去の反省からも、建設コストのみの理由で採用するのでなく、共同住宅としての防火・遮音性能等に細心の設計をし、土地利用を含めたトータルデザインを駆使していかねば認知はないと思うのですが、諸兄の御意見は如何に。

在学生だより

平成3年度行事

五三会学生部会

大学3年間が、アッという間に過ぎ4年生となり、この五三会学生部会役員に選ばれ、今日まで広工大建築学科に「五三会学生部会」という名を浸透させる為に努力してきました。僕らの活動により学科生がより一層、活発化、活性化してくれば本望です。

そこで平成3年度の活動内容をあげてみます。

平成3年度活動内容

H3

3月　五三会（新卒業生主催）卒業生謝恩パーティー

4月　新入生オリエンテーションセミナー
「五三会」の説明及新入生との交流

5月　就職戦線決起大会

11月　工大祭
出店、卒業設計展示、ゼミ紹介
五三会コンペ「川からの再生」発表

12月　五三会学生部会新卒業生主催1～3年生ボーリング大会
4年生チューター会ボーリング大会
広島4大学合同卒業設計展（県民文化センター）

H4

3月　五三会学生部会主催卒業生謝恩パーティー（全日空ホテル）

以上の様な活動内容でした。このような数少ない行事ではありましたが、企画、運営、協力することにより、建築科4年生同士の交流、各先生方、建築学科全体、OBの方々と一層親しくなれたような気がします。

新役員も選出され、我々4年生は卒業を待つばかりとなりましたが、五三会の役員になれたことで、人間関係もひろがり、企画、運営の責任の重大さを知りました。

新役員達にも名ばかりの「五三会学生部会」ではなく広島工業大学建築科を、しょって立つ思いで、気をひきしめて頑張ってもらいたいと思います。そのためにも学生諸君、OBの方々のより一層の御協力をこれからもよろしくお願いいたします。

こんな五三会学生部会

学生部会会長　白方秀喜

学生生活の中で一番充実したのは4年生のときではないだろうか。これというのも五三会学生部会の幹部に成り、いろいろ企画運営してきたからだと思います。3年の後期に次期会長に選ばれ、ある企画をまかされ先輩の指導をあおぎながら運営していきましたが、いざ4月になってみると、なにをやって行けばいいのか迷うばかりで、そのため他の役員の方に迷惑をかけたと思います。

しかし、私自身、五三会の役員に成るまでは五三会のことについて知りもしないのに、1、2年生は知るはずもなく、あることは知っていても何をしてどの様な活動をしているのか知らないと思います。五三会の行事は、4年生と3年生のごく一部だけが参加している様に見え、4年生だけの五三会になってしまっているので建築学科の五三会にしなければならないと後になって思いました。

これから1年生から4年生まで全学生の参加できる行事にして浸透を図り、先輩達と交流し学生生活を充実させてほしいし、五三会学生部会を各学生とのコミュニケーションの場として、建築を親しめる場として活性化していってほしい。また、毎年五三会でなにかのこる物を造ってほしいと思う。

「五三会から…」

学生部会副会長　佐藤試一

卒業設計と大忙がしの中、最近、4年間何をしてきたのだろうかとふと考えるようになる中、製図台の前に座る毎日である。実際この原稿を書く時間もない時期である。ただ自分の4回生前半の怠慢のためではあるが……。そうも言ってられないのが現状である。

自分は入学以前は、工大というものを殆ど何も知らずにいたため工大のイメージの美化と高校の共学という環境の工大とのギャップを多少なりとも後悔したものです。今でこそ女子学生が増えたものの4年前は本当にむさ苦しい男ばかりでした。しかし一年、二年と時が経つにつれて自然に工大の雰囲気になれ、工大生であるという自覚も持ちはじめました。まったく慣れとは恐ろしいもので今では平気で学内をスリッパで歩くことさえも……。

五三会という場で建築学科の様々な仕事に参加し、様々なことを経験していく中で様々なことを学びました。仕事でしか見ることの出来ない友人の顔もありました。そして、その仲間たちと飲む酒も最高ではなかったでしょうか。酒を飲むたびに、仲間達と「教育は愛なり！」「工大は建築なり！」と御叫びを上げていました。これは一回生の時からまったく変ってなく、やはりその時から工大に、そして建築学科に誇りを持っていたのに違いないのでしょう。

最初の話に戻り、四年間ただ大学へ来て、バイトをして、遊ぶその連続である人が多いと思います。その中でも自分の意識の中の多々ある様々なチャンスを少しでも自分のものして、建築学科生として建築にそして他の様々なことに妥協せずに、挑戦し、経験してもらいたいです。

ネーム・バリューが上がっている工大で、自分達は工大の建築学科を卒業して来たという自信と誇りを持って社会へ出て行きたいものです。

それにしても時間が無い……。

ふたたび特報

新美南吉記念館公開コンペの最優秀賞に本学OBが選ばれる！

昨年、新日本建築家協会（ＪＩＡ）新人賞に昭和47年卒の村上徹氏が選ばれたのに続き、今年再び本学ＯＢが新美南吉記念館公開コンペの最優秀賞に輝くという快挙を成し遂げました。

昭和57年に本学建築学科（谷嘉夫ゼミ）を卒業された新家良浩氏（新家良浩建築工房）と岡村雅弘氏（横川設計工房）のお２人は、北川原温＋ＩＬＣＤの石田氏と３人でこの公開コンペに臨まれました。

応募総数は421案という最近のコンペ史上珍しい大量の応募者の中、宮脇檀氏（宮脇檀建築研究室）を代表とする６名の審査委員により審査が行われ、余りに斬新な案である為、土地の水位、建築費、施工納まり等から一時は佳作にまで落とされていた案でありましたが、この方々ならば実施に当ってそれらの欠点を克服することが十分可能だろうと全員の考えが一致し、見事最優秀賞に選出されました。

なお、本記念館建設の予定は、平成３年11月に工事着手、平成５年３月に完成の運びとなっています。

「工大30周年を迎える」

我らが広島工業大学は創立30周年を迎え、数々の記念行事が行なわれました。

去る11月10日、広島工業大学創立30周年記念式典は予定通り11時にファンファーレが鳴った。昭和36年の広島工業短期大学創設から数えて30年、高等教育拡充の波に乗って着実にその地位を築いてきた本学の鶴記念体育館は、県の大学、高校関係者をはじめ官公庁、企業、同窓会、後援会、本学教員であふれていた。

多くの来賓を前に壇上に上がった創立者、鶴襄学長は高い席から式辞の非礼を先ず詫びたのち、創世の開学時に自らの教育目標をご理解の上、力をお貸しくださった多くの方々に対する感謝の念を述べ、常に夢が先行する我が人生において、追いかけたその夢に人々がついて来てくれた幸運を語った。

また、鶴学園の鶴衛副理事長、竹下虎之助広島県知事から祝辞をいただき式を終了した。

その他、記念式典の前に、日本鋳物工業協同組合広島たたら会より鋳物製の「常夜燈」の寄贈、広島工業大学同窓会が約２万人の同窓会から多大の寄付を募り、五三会も寄付をし、今日のこの日のために設えた「愛の詩」の銅像の除幕式が行われた。

記念行事はこのあと17日月曜日の午後、広島工業大学後援会の後援による記念講演会が広島国際会議場で開催され、講師にエッセイストの木村治美先生をお招きしてこちらも盛会でありました。

「感謝」

編集の「小川氏」広島を離れる

昭和59年、「五三会」会報誌第12号（60年版）から７年間に渡り、会報誌の編集をやってこられました、小川雅彦氏（Ｓ53年卒）が平成４年１月より鹿児島（鹿児島大学、施設部建築課）へ転勤されることになりました。

「五三会」では、平成３年12月末に、ささやかではありますが、送別会を催し、小川氏の長年の会報誌編集への熱意、努力に感謝の意を表わし、記念品を御贈りしました。

鹿児島での御活躍ならびに、今後共「五三会」への御支援宜しく御願いします。

前列右より２人目小川氏

訃　報

本学建築学科名誉教授の曽根田彰先生が、平成４年２月５日夜、ご逝去され、２月７日葬儀が営まれました。80才でした。五三会では、香典と花輪をお贈りし、謹んで故人のご冥福をお祈りいたしました。

経歴

明治44年12月20日広島県佐伯郡能美町に生まれる

昭和11年３月東京大学工学部建築学科卒業

昭和42年３月広島県土木建築部次長を退職

昭和42年４月広島工業大学建築学科教授に就任

昭和44年度より広島工業大学建築学科主任教授

昭和55年３月退職し、名誉教授となる

担当科目：建築行政（法規）、都市計画、建築設計等

・日本建築学会中国支部・支部長

・広島県建築士会・会長

・広島県建築士審査会会長

等を歴任されました。

17th
ITSUMIKAI COMPETITION

第17回五三会コンペ入選発表

コンペ報告

第17回五三会建築設計競技は、建築家として、又、近畿大学工学部非常勤講師として御活躍中の岩本秀三先生に、課題作成・審査をお願いしましたところ、御多忙にもかかわらず快くお引受けくださり、「川からの再生」という課題を頂きました。

昨年10月12日に締切りの日を向かえ、広島工業大学8点、福山大学2点、近畿大学1点の計11作品が寄せられ、同26日に行われました岩本先生の厳正なる審査の結果、別記の通り各賞が決まりました。入賞者の皆さんおめでとうございます。

応募された作品はどれも力作ぞろいで、ひとつひとつの作品に魅力あるウォーターフロントの提案がなされており、ここでは入賞作品の紹介のみとならざるを得ませんが、惜しくも選にもれた方もそのレヴェルは高く、一生懸命に取り組んでいる姿が目に浮かぶようでした。ここに発表するスペースがないことをとても残念に思います。

表彰式・講評会は11月3日、広島工業大学大学祭期間中にとり行い、講評会では岩本秀三先生を中心に熱のこもった議論が交わされました。

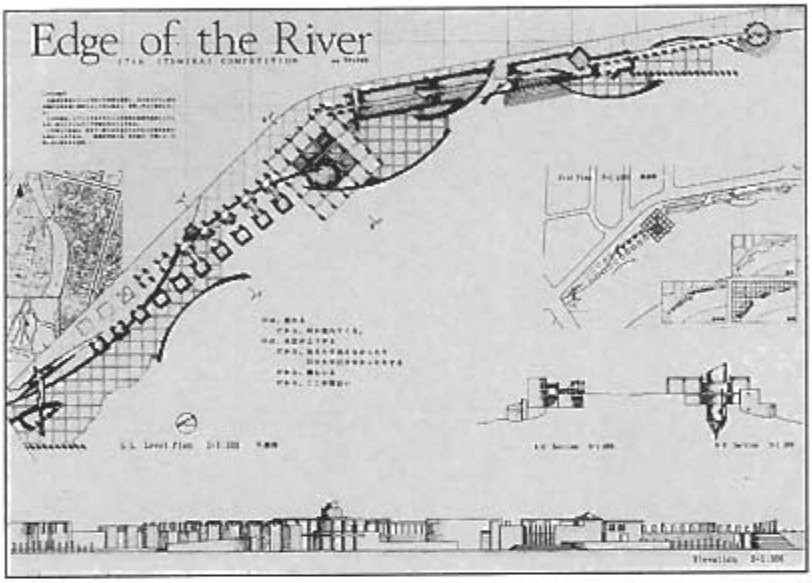
この表彰式・講評会は毎年行われ、学生の方々は他大学の学生、第一線で活躍しておられる審査員の先生との交流の場として、OBの方々には熱心な学生達との交流の場として恒例となっております。これからもますます実りあるものになればと思っておりますのでどなたでもお気軽にご参加下さるようお願いいたします。

岩本先生にはこの設計競技にご理解頂き大変お忙しいなか学生達のために貴重なお時間を割いて頂き、課題の作成・審査・講評とご協力頂きありがとうございました。講評会では学生ひとりひとりに熱心にご指導頂き、先生の建築に対する情熱に頭の下がる思いでした。

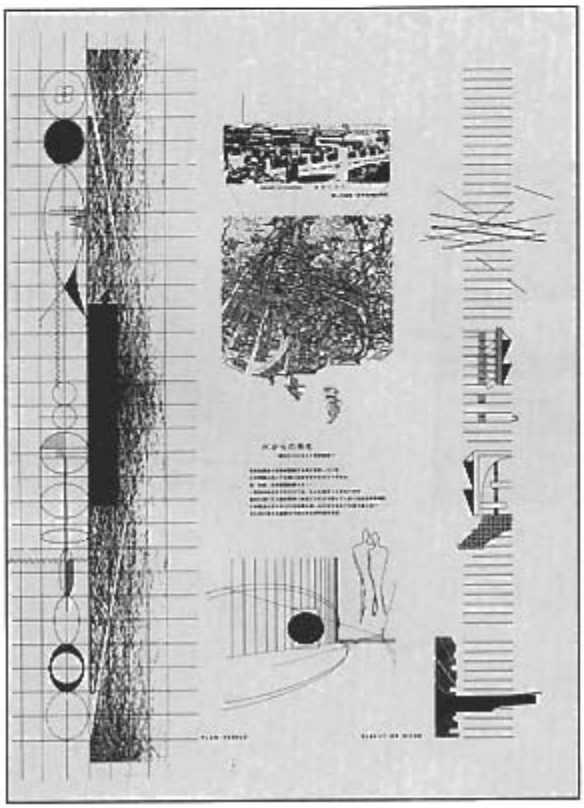
今後共この設計競技がより発展していきますよう皆様方の一層のご協力をお願いいたします。

五三会コンペ委員
盛岡隆治　山本重信
藤井秀幸　岡田英治
有吉貴司

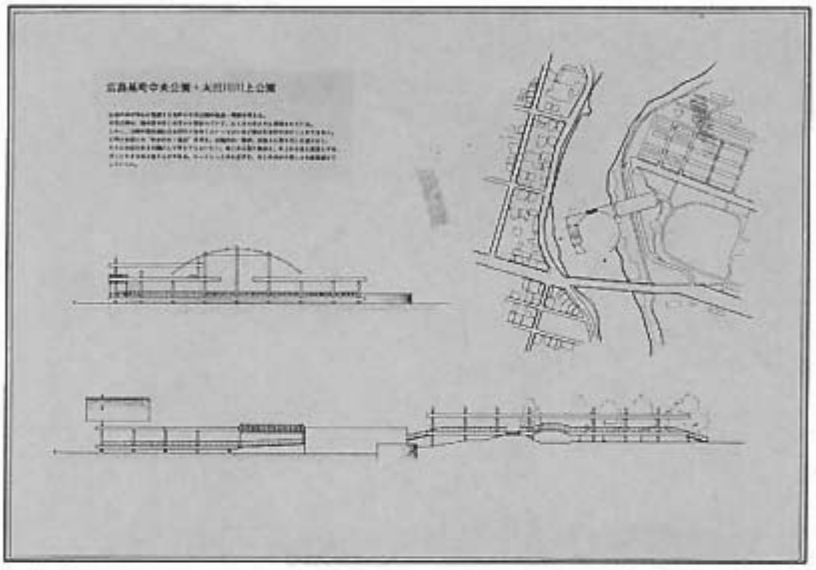
1等－藤崎　重則
(広島工業大学建築学科研究生)
2等－中野渡創子
(近畿大学工学部建築学科)
3等－松本　　剛
(広島工業大学建築学科)
佳作－西尾　通哲
(広島工業大学建築学科)
佳作－河島　　康
(福山大学工学部建築学科)



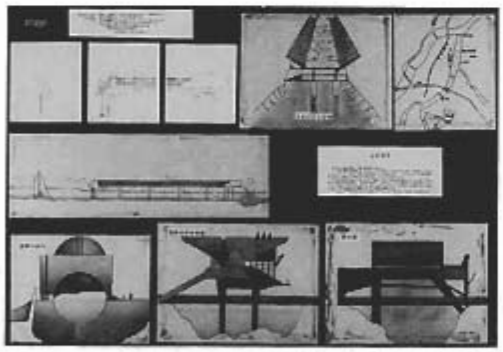
一等
藤崎重則（広工大）



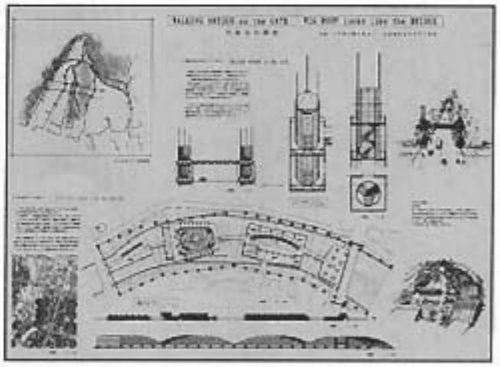
二等
中野波創子（近畿大）



三等
松本　剛（広工大）



佳作
河島　康（福大工）



佳作
西尾通哲（広工大）

審査講評

建築家　岩　本　秀　三

五三会コンペも今回で17回を迎えられたこと、心からお慶び申し上げます。

課題作成にあたり役員の方からこれまでの課題が一貫して広島をテーマに出題されており、今後もその事をベースに発展させていきたいとのお話でした。

そこで、今回の課題では、広島にあって日常目に触れながらも、さして意識もせずに見ているだろう川について思いを巡らせて頂こうかと思いました。

ここで言う「川」は、広島のルーツとして表層的に捉えた意味のみではなく、かつて、川を手掛りに人々が活発に生活し、行き交い、歴史が刻まれてきたという時代の流れのなかで、今一度その存在を問い、かつての係わりを再度取り戻すことにより、広島の未来に繋げていける様な提案を期待したものです。

今回応募して頂いた中から、1等の藤崎案は、多少課題はあるものの、ある意味では実現可能な案といえる。彼は、人間と川の関係をコンクリートの幾何学的な造形を通し表現すると同時に、広島（瀬戸内）の川の特徴でもある汐の満干によりその造形を見え隠れさせることで時間表現の媒体とし、人間と川と時間の経過をテーマとしている点が評価できる。欲を言えば、時間経過の媒体としての川面と造形にもう少し詰めがほしかった。

今回惜しくも2等になった中野渡案は、中島地区という場所性の持つ時間軸上にかつてのにぎわいを蘇させながら、人と川とのかかわりを表現しようとしている点は、注目したが結果として、いわゆる店の連続であろうプ

ロムナード上の仮設的な屋根の表現などが説明不足の為、見る者の想像の域をこえず、当初感じた時間軸と賑わいが充分裏付けられなかったのが残念でした。但し、プロムナードと川面を渡る緊張感のある細い橋と川から立ち上がった細い柱上のデッキの関係等気持ちが良さそう。

3等の松本案は、中央公園と道路を隔てた川の関係をテーマとしている。この案の評価できる点は、日常の公園から見ることのできない川面を公園と一体に扱かおうとした点であるがもう少しアイデアを発展させて向こう岸へと繋げることができればより一層人間と川（水面）の関係がより自然に身近なものになったのではないかと思う。

いずれにしても今回応募して頂いたどの作品も力作で審査にあたり大変迷わせて頂いたことに応募して頂いた方々に感謝しております。

最後になりましたが、応募者各位の健闘を讃えると共に、このコンペを実行するにあたり献身的ともいえる役員の方々とＯＢ諸兄の活動に心から敬意を表します。

18th ITSUMIKAI COMPETITION
第18回五三会コンペ 作品募集

●メインテーマ「広島の街づくりを考える」Part7

課題　「広島のシンボル」
－詩的住まいを求めて－

出題・審査　福山大学助教授
小野　泰

〈主旨説明〉

現代の都市環境は光、色そして騒音の刺激的、信号的な環境として人は機械的、循環的な時間を送る。そこで事物は単なる装置として、その効用性、便利性とその能率性を要求される、道具的事物にすぎない。

ポール・フローデルはいう「パリには家がない、……通り番号、屋階の数がわれわれの因習的な窟の位置を決定するが、われわれの住まいの周りには空間がなく、……大地にのめり込まないように家はアスファルトによって地面にしがみつく。この家は根を持たない。」と。

日常の生活は存在の基盤を忘れた事象に受動的にかかわりあうのみで、現代を特徴づける、消費文化に、いくらその選択性が与えられようと、ましてや、他文化の無批判の受け入れであってみれば、生活の環境は画一化されざるをえず、そこからは十全たる意味をこめた文化は生まれないであろう。

本来の住まう場所は、各々の事物が、幾層かの意味を潜めた――ある時は道具として行動をさそい、またある時はその本来の意味を顕にする――多様な意味の交換の場、象徴的場であろう。

広島の歴史は、近世初頭毛利氏が県北吉田の郡山から、居城を現在の地に移してから始まる。太田川の中州に建設された城下町は、城をその共有される象徴として当時の社会構造を視覚化したものであった。この城を中心に、東西に瀬戸内を結ぶ山陽道が、山陰を結ぶ出雲路街道が北にのび、集団的住まいとしての都市の構造を意味的にも、形態的にも備えていた。その後、広島は、軍都として、戦後は、くりかえしてはならない過去を象徴する都市として、そのアイデンティティを保ってきた。しかし町はアメーバ状に拡がり周囲の山々の裾野を浸食し、住まいの場としての都市のイメージ構造はその明確さを欠いてきた。

広島の地形は平坦に拡がる扇状地の中に、それを取り囲む周囲の山並、瀬戸に浮かぶ島じまに呼応する形態的特質を有しながら、なかば放置されてきた、いくつかの丘陵に近い山(島)々－比治山、黄金山、向宇品、江波山－が点在する。

とりわけ比治山は、市街地に近い地理的中心に位置しながら、そのイメージは定かでない。ＡＢＣＣ（原爆研究所、現在は広大の施設）はいうに及ばず、近年建設された現代美術館も市街地からは視覚的にほとんど隠ぺいされている。

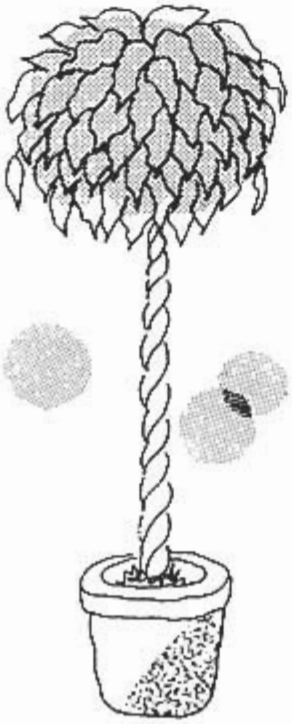
今回のコンペは、この比治山をテーマに、これからの広島の象徴の一つとなる場を提案していただきたい。提案は現在の施設の機能を強化するものでも、それを撤去し、ふさわしい機能を設定するものでも、また、自然公園として森を育成するのも自由である。ただ、都市のシルエットとして、目標（ランドマーク）として、広島にふさわしい意味を備えたものであってほしい。

建物を計画する場合でも、物理的巨大さに

おいてではなく、むしろその形態的意味においてそうなることが望まれる。とりわけ、平和大通り（近々比治山トンネルが完成する）、あるいは広島の第一印象となる、ＪＲからの景観が重要であろう。

「花は紺青に暮れた東山を背景に、りょうらんと咲き匂っている。この一株のしだれ桜に、京の春の豪華さを集めつくしたかのように。……山の頂が明るむ。月がわずかに覗き出る。……花はいま月を見上げる。月も花も見る。」（東山　魁夷「古都礼賛（円山）」

詩はその言葉によって世界を集める。建築も、芸術と同じように、与えられたものを（それが自然であれ、人工的なものであれ）理解し、それを表現する作品として制作されねばならないだろう。



〈所要図面〉

設計意図を表現する、コンセプト、エスキース（パース、イメージスケッチ、模型写真等）、必要に応じて平面図、断面図、立面図をＡ１サイズの用紙１枚の中に納めていただきたい。表現ならびに用紙の種類は自由であるがパネル化した作品は遠慮願いたい。

〈応募締切〉

1992年10月12日月曜日（当日消印有効）

〈提出方法〉

応募作品裏面に住所、氏名（ふりがな）、年齢、電話番号および学校名・勤務先名、所在地、電話番号を明記した紙を裏返しに貼付の上、下記へ郵送してください。合作の場合も同様です。

〈提 出 先〉

西原建築事務所
〒730 広島市中区舟入南３丁目19番26号
Sky Attic Ｎビル101号
TEL (082)232-5758

〈そ の 他〉

・応募作品は未発表作品に限ります。
・応募登録の必要はありません。
・質疑応答はいたしません。規定外の問題は応募者の自由決定を可とします。
・応募作品は返却いたしません。必要のある方は各自でコピーをとっておいてください。

〈入選賞金〉

総額15万円
審査結果は、応募者に通知するとともに、大学祭（11月）にて発表、表彰、展示を行う。

〈出題者プロフィール〉

小野　泰
1942年　広島県に生まれる
1965年　京都大学工学部建築学科卒業
1967年　同大学院修士課程終了（建築論、建築設計・増田研究室）
1968年　京都大学工学部建築学科助手
1980年　福山大学工学部建築学科助教授（設計、建築論担当）
　　現在にいたる
　　（広島工業大学非常勤講師）

(1991年度 卒業研究テーマ一覧)

(指導教員　椋代　仁朗)

段　　和徳・日信　一成
　　角型鋼管柱・H形鋼はり接合部の弾・塑性変形性状に関する研究
重森　裕二・土井　洋典・村重　　剛
　　はり崩壊型鉄骨々組はり端部の塑性変形性能に関する研究

(指導教員　中尾　好昭)

池田紀代次　　列車による沿線地盤の振動に関する研究
伊藤　昭彦　　鉄筋コンクリート造建物の床振動に関する研究
井上　　茂　　高強度コンクリートの調合に関する研究(500kg/cm²圧縮強度コンクリートにおける調合諸因子の影響)
岩井　良樹　　制振効果を有するPC壁版の製作に関する研究
岡　龍一郎　　クレーン構造体の振動応答に関する研究
尾崎　健一　　法隆寺金堂の構造解析に関する研究
加藤　武文　　PC壁版付鉄骨造建物の耐震に関する研究
河上　盛次　　PC造建物の設計計算に関する研究
小林　　匡　　機械基礎・地盤系の衝撃振動に関する研究
野村　広和　　建物の地震応答に関する研究
吉山　博和　　セルフシールドアーク溶接法による縦向き上進裏当金付突合せ溶接実験
川尻　昭彦　　鉄骨造建物実大ラーメン模型実験法に関する研究

(指導教員　佐藤　立美)

桑原　義晴　　高強度鉄筋コンクリート有孔梁の開口補強に関する実験的研究(その1)
橋本　和彦　　同上(その2)
平　　弘毅　　同上(その3)
西本　文喜・平野　浩司
　　鉄筋コンクリート部材のひびわれ制御に関する基礎的研究
天廣加奈子　　鉄筋コンクリートスラブの振動性状と劣化予測に関する研究

(指導教員　丹羽　博亨)

小畑　　淳　　設計　サンデーガーデンビレッジ
坂本　恵理　　設計　高齢者たのコミュニティー公園
下瀬　啓吾　　設計　集合住宅
藤中　雄二　　設計　Shape of Hill (intothe roof valley)
古谷　勇次　　設計　ウォーターフロント開発
松岡　洋行　　設計　OKAYAMA CENTRAL HALL
小田　泰弘・亀井　俊雄・小林　　洋
　　論文　廿日市町並の形成と変遷
川本　完治・谷　　貴之
　　論文　法隆寺金堂の構造に関する研究

(指導教員　水田　一征)

豊田　俊司　　設計　光と風の路
西尾　通晋　　設計　Park of the Availability
広田　恵子　　設計　PIAZZA

(指導教員　篠原　道正)

石丸　　忠・野村健太郎
　　山陰地方の設計用外気温度の整備(乾球温度)
安東　和典・横山　　剛
　　各種作業に現われる動作時の代謝熱量に関する研究
石谷　直樹・河野　貴一
　　大学の事務作業時の代謝熱量に関する研究
伊藤　俊徳・井口　靖詔・黒原　吉晴
　　床暖房時の人体の熱収支と温冷感に関する研究
柴田　明英・村越　昭久
　　四国地方におけるTAC温度の整備

(指導教員　森保　洋之)

上杉　　桂　　室空間の認知構造に関する研究(その1)(論文)
奥野　功貴　　同上　(その2)
本山　慈子　　建築形態の視知覚的把握に関する研究(その1)(論文)
門間　弘展　　同上　(その2)
青木　大祐　　集合住宅における戸建感の醸成要因に関する研究(その1)(論文)
平本　征二　　同上　(その2)
古橋　俊和　　超高層住宅の居住実態に関する調査研究(論文)
高橋　洋二　　学校と地域教育関連施設の連携に関する計画的研究(論文)
萱嶋　　巌　　広島西部丘陵都市の計画過程に関する研究(その1)(論文)
小野　一郎　　同上　(その2)
佐藤　誠一　　Orgel－music box(設計)
松田　康史　　STREAM(設計)
藤原　裕行　　Water maze(設計)
松本　　剛　　THE FINE ARTS AND THE ROWS OF HOUSES(設計)
村上　　忍　　"HEARTS." we are very music LIVE PERFORMABLE FACILITIES.(設計)

(指導教員　坂田　泉)

打猶　　剛　　広島県における近代建築の基礎的考察－広島市と県西部－
土森　　朗　　同上　－広島県東部－
原尻　　正　　同上　－広島県呉と県北部－
新升　俊明　　広島県安佐南区に建つ複合レジャーセンター－コミュニティーセンター－
船越　　聡　　宮島に建つ郷土史料館
上田　　始　　リハビリ福祉宿泊施設
網島　宏明　　瀬戸内沿岸地域の建築史的考察－岡山県牛窓周辺－
藤原　　優　　同上　－岡山県笠岡周辺－

(指導教員　天満　祥弥)

猪俣　孝哉　　ホテルにおける設備設計－快適空間創作－
橋　　英治　　オフィスビルの設備設計－地球永続のための省エネルギー－
谷口　正記　　総合病院の設計－臨床・教育・研究の融合－
葛川　博之　　美術館の設備計画－細やかな気配りによる収蔵庫の空気調和設備－
中野　慎一　　50年後の君のために－特別養護老人ホーム計画－
西元　　徹　　50年後の君のために－特別養護老人ホーム計画－
堀江　謙司　　アーバンリゾートホテル
松原　朋子　　あのとき、僕は、そこにいたんだ
毛利　輝秋　　病院の設備計画－空間から考えた院内感染防止策－
八木　誠一　　都市における外部視環境の調査－(L"a"、b")表色系による色度の測定および分析－
山本　　功　　"AMUSEUM" 知的遊園地
西田　雄治　　美術館の設備設計－展示空間における照明計画－
福吉　昌志　　呉市西中央にたつ体育館計画

（指導教員　高松　隆夫）

池内　光夫　軸力と２軸曲げを受けるＨ型鋼の最大耐力に関する研究
池田　敏成　表面処理の違いによる高力ボルト摩擦接合の摩擦係数の変動について
北川　　学　有孔Ｈ型鋼はりの変形性状に関する研究
宇室　靖一
田中　秀樹　角形鋼管・Ｈ型鋼はり接合部の変形性状に関する実験的研究
谷口　貴昭　軸力と２軸曲げを受けるＨ型鋼の最大耐力に関する研究
中川　雪嗣　積層ゴムの有限要素解析
西谷　圭司　表面処理の違いによる高力ボルト摩擦接合の摩擦係数の変動について
東　　康弘　柱・はり接合部の局部変形を考慮した平面骨組構造解析
松尾　　勉　有孔Ｈ型鋼はりの変形性状に関する研究
森崎　　豊　構造力学の演習問題の難易度に関する分析
山下　宏城　柱・はり接合部の局部変形を考慮した平面骨組構造解析
渡部　孔史　構造力学の演習問題の難易度に関する分析
河村　素行　積層ゴムの有限要素解析

（指導教員　佐藤　洋）

天田　尚宜　設計　A LONG WAY －人生・都市・文化－
今村　祐之　設計　Z-superiority
岡村　将史　設計　Unknown Construction －未知なるものへの挑戦－
加藤興一郎　設計　リゾート施設
釜内　晋二　設計　フォト・モンタージュ・シークエンス－遊行－
白方　秀喜　設計　機械仕立ての森
新名　秀樹　設計　トランス・ナショナル・スペース
中村　泰子　設計　無機体から有機体としての建築
畑田　俊和　設計　みなとNAGASAKI
尾立　道泰　設計　AQUA ENTRANCE
小林　太三　設計　広島市に建つウォーターフロント試案
砂田　幸信　論文　建築形態の幾何形体による分析－ル・コルビュジェ－

（指導教員　菅原　辰幸）

沖　　隆行　広島市の用途地域指定変更における建物の用途及び規模の変化
小崎　政文　広島市の用途地域指定変更地区における建物の変化について
近藤　真治　広島市の用途地域指定変更地区の検討
瀬田　明明　広島市の用途地域指定変更における建物の用途及び規模の変化
田村　年雄　広島市における用途地域別建物の用途と規模の変化について
徳永　大祐　広島市の用途地域指定変更における建物の用途及び規模の変化
西本　賢一　広島市の用途地域指定変更地区における建物の変化について
横山　哲也　広島市の用途地域指定変更地区の検討
星野　将宏　店舗立地に関する研究
長野　真徳　広島市東区における建物の立地及び規模の現況
高　　敏洋　広島市安芸区における建物の立地及び規模の現況
河上　秀樹　広島市佐伯区における建物の立地及び規模の現況

（指導教員　西川　加輔）

大久保敦政　高齢者を配慮した低層集合住宅の設計
岡山　欣吾　店舗付マンションの設計
皐　　健吾　高齢者を配慮した低層集合住宅の設計
高野　栄一　店舗付マンションの設計
中西　博文　生涯を働き学び廻う
藤川　弘幸　店舗付マンションの設計－Toun Back to…
前田　伸介　ヤングオールドのためのシルバーマンション
丸子　健士　店舗付マンションの設計に関する基礎的研究（論文）
室岡　智章　歩車融合のコモンアクセス住宅
山根　繁樹　店舗付マンションの設計
山脇　宏策　高齢者低層集合住宅(若さへのアプローチ)
吉野　太郎　高齢者向ピクトグラムに関する研究(論文)
若山　立人　ショッピングモールをもつ集合住宅（川へ行こう）
渡辺　周作　高齢者を配慮した低層集合住宅の設計

（指導教員　清田　誠良）

沖　　和樹・勝田　吉導・豊田　泰久・
西村　ちえ・山田　真由
風環境測定用風洞の基本性能に関する実験的研究
加川　博昭・松本　和也・吉村　真一
市街地の風の乱流構造が建築物壁面風圧に及ぼす影響に関する実験的研究
日野　利典・藤川　広志・水本　秀幸
市街地風の乱流構造が建物周辺地上面圧力に及ぼす影響

（指導教員　手越　義昭）

永井　　修　鉄筋コンクリート構造の学校建築物における剛性の経年変化に関する調査研究
松本　和美　建築物を対象とした振動解析システムの構築法の研究
森田　健市　既存学校建築物の床振動実測に基づく床剛性調査
山中　康弘　SKETCHPADを使った建築設計支援に関する研究（その１，SDETCHPADの位置づけと利用技術）
前川　祐介　SKETCHPADを使った建築設計支援に関する研究（その１，設計プロセスの整理とリファレンスモデル）
伊井　　暁　属性モデルを用いた建築設計支援システムの構築法の研究（その１，設計プロセスの整理とリファレンスモデルの研究）
伊塚　　誠　属性モデルを用いた建築設計支援システムの構築法の研究（その２，属性モデルのデータ構造の研究）
藤原　克明　属性モデルを用いた建築設計支援システムの構築法の研究（その３，３次元グラフィック表現技術の研究）
吉野　智之　属性モデルを用いた建築設計支援システムの構築法の研究（その４，ユーザインタフェースの研究）
久山　忠延　河口付近から採取した細骨材の塩分含有率試験に関する調査研究
高橋　　豊　建築業界におけるコンピュータ利用技術の調査研究（その１，建築設計事務所における利用技術）
桜井　宏泰　建築業界におけるコンピュータ利用技術の調査研究（その２，総合建設業における利用技術）

1991年度卒業者就職先等一覧表

〔エンジニアリングコース〕

氏名	事業所
安東和典	
池内光夫	
池田紀代次	
池田敏成	
石谷直樹	
石丸忠	
伊藤昭彦	
伊藤俊徳	
井上茂	
井口靖詔	
猪俣孝哉	
岩井良樹	
岡龍一郎	
尾崎健一	
加川博昭	
勝田吉導	
加藤武文	
河野貴一	
北川学	
楠英治	
久山忠延	
黒原吉晴	
桑原義晴	
小林匡	
櫻井宏泰	
柴田明英	
宇室靖一	
高橋豊	
田中秀樹	
谷口貴昭	
段和徳	
蔦川博之	
天廣華奈子	
土井洋典	
中川啓嗣	
永井修	
西谷圭司	
西本文喜	
野村健太郎	
橋本和彦	
東康弘	
日野利典	
日信一成	
平弘毅	
平野浩司	
藤川広志	
松尾勉	
松本和也	
水本秀幸	
村越昭久	
村重剛	
毛利輝秋	
森崎豊	
森田健市	
八木誠一	
山下弘城	
横山剛	
吉野智之	
吉村真一	
吉山博和	
渡部孔史	
川尻明彦	
西田雄治	
河村素行	

〔デザインコース〕

氏名	事業所
青木 大祐	
天田 尚宜	
伊塚 誠	
今村 祐之	
上杉 桂	
打猟 剛	
大久保 数政	
岡村 将史	
岡山 欣吾	
沖 和樹	
沖 隆行	
奥野 巧貴	
小田 泰弘	
小野 一郎	
小畑 淳	
加藤 興一郎	
門間 弘展	
釜内 晋治	
亀井 俊雄	
川本 完治	
小崎 政文	
小林 洋	
近藤 真治	
坂本 恵理	
阜 健悟	
佐藤 誠一	
下瀬 啓吾	
白方 秀喜	
新井 俊明	
新名 秀樹	
瀬田 朋明	
高野 栄一	
高橋 洋二	
谷 貴之	
田村 年雄	
土森 朗	
徳永 大祐	
豊田 俊司	
豊田 泰久	
中西 博文	
中野 慎一	
中村 泰子	
西尾 通哲	
西村 千恵	
西元 徹	
畑田 俊和	
原尻 正	

氏名	事業所
広田 恵子	
藤川 弘幸	
藤中 雄二	
藤原 裕行	
藤原 克明	
船越 聡	
古谷 勇次	
古橋 俊和	
堀江 謙司	
前川 祐介	
前田 伸介	
松岡 洋行	
松田 康史	
松原 明子	
松本 和美	
松本 剛	
丸子 健士	
室岡 智章	
本山 慈子	
山田 真由	
山中 康弘	
山根 繁樹	
山本 功	
山脇 弘策	
横山 哲也	
吉野 太郎	
若山 立人	
渡辺 周作	
尾立 道泰	
小林 太三	
笹井 直彦	
砂田 幸信	
伸井 晩	
長野 真憲	
橋爪 大輔	
平本 征二	
福吉 昌志	
村上 忍	
上田 始	
杉谷 三雄	
高 敏洋	
細島 宏明	
藤原 優	
萱嶋 巌	
河上 秀樹	

広島工業大学建築学科
教員及び非常勤講師名簿

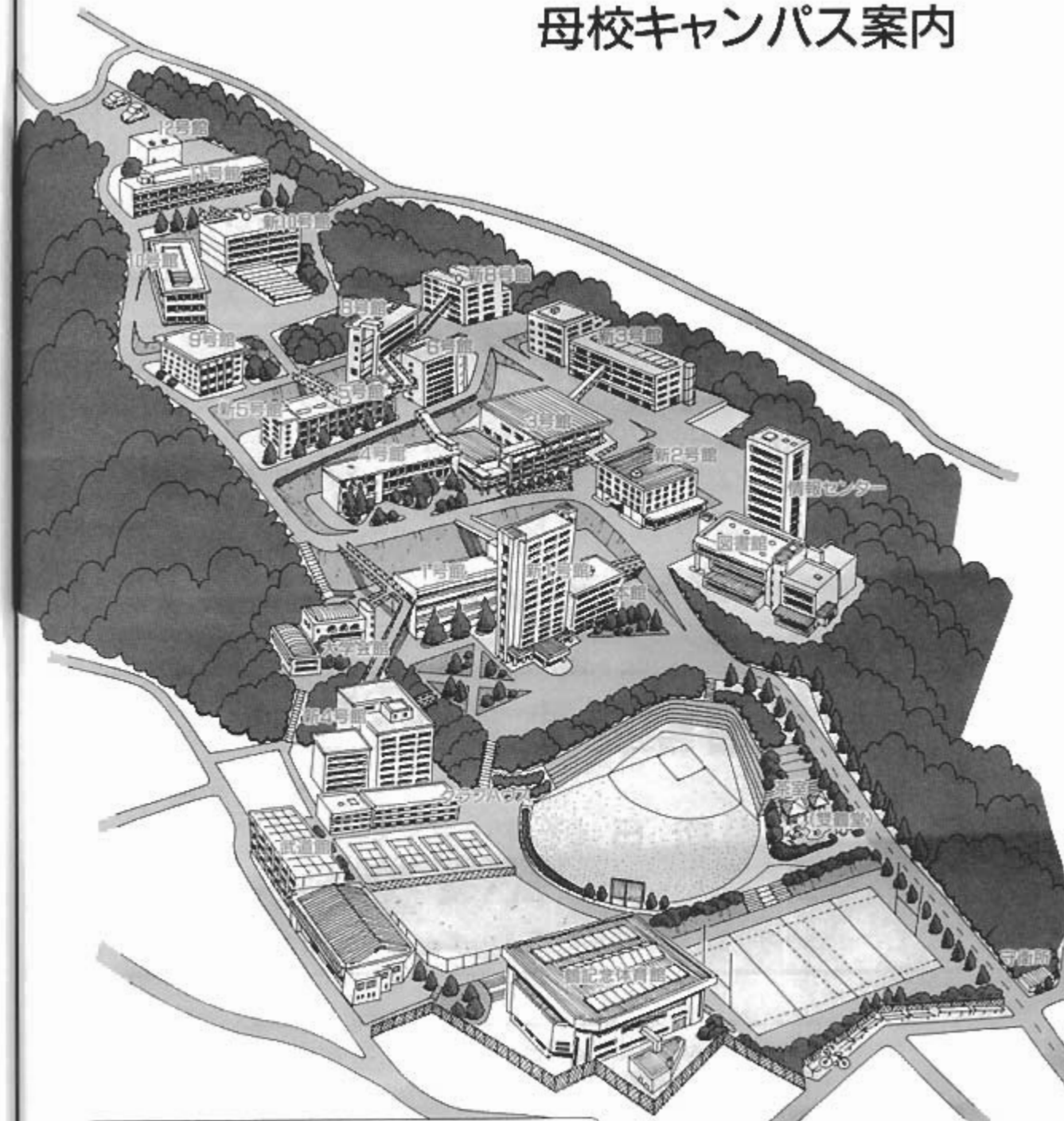
〔建築学科教職員・専任教職員〕

氏　名		住　所	郵便番号	電話番号
椋代仁朗	教授			
中尾好昭	〃			
佐藤立美	〃			
丹羽博亨	〃			
水田一征	〃			
篠原道正	〃			
牛島賢象	〃			
森保洋之	〃			
坂田泉	〃			
天満祥弥	助教授			
高松降夫	〃			
佐藤洋	〃			
菅原辰幸	〃			
西川加禰	〃			
清田誠良	講師			
手越義昭	〃			
大林真	技術職員			

〔招聘講師〕

小野泰
入野忠芳
有馬秀宣
田中衛一
花輪恒
川田潤
喜多村幸夫

母校キャンパス案内



- ●電子工学科……新1号館
- ●電気工学科……新10号館
- ●機械工学科……6号館
- ●土木工学科……新2号館
- ●建築学科……新3号館
- ●経営工学科……新4号館
- ●一般教育……新4号館
- ●基礎教育……新5号館
- ●電算センター……情報センター1F
- ●工作センター……8号館
- ●工学研究所……11号館
- ●学園本部…新1号館
- ●大学事務局…本館

第24回(平成4年)総会のお知らせ

日　時　　平成4年4月25日（土曜日）
1．五三会総会……午後1時30分
2．工大同窓会……午後5時
3．懇　親　会……午後6時30分（県民センター）

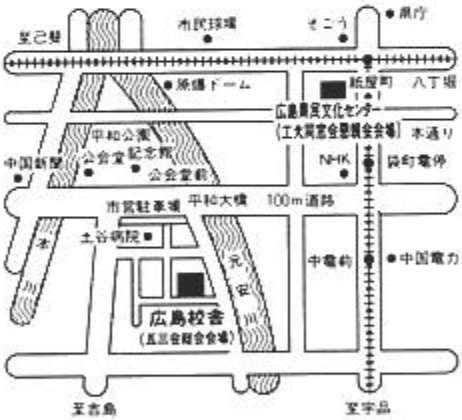
場　所　　五三会総会　広島市中区中島町5－7鶴学園広島校舎　TEL（082）249－1251㈹
工大総会・懇親会　広島市中区大手町1丁目5－3
県民センター　TEL（082）245－2311㈹

内　容　　建築学科同窓生五三会員全員が参加し、建築学科各教職員の参加を求め、五三会活動報告と、会計発表を行ってのち、酒と豪華な料理で、昔話や同業としての話で親睦をはかる。

参　加　　参加者は、下記事務室に電話連絡か、又は官製葉書に"出席"と書いて4月20日必着をもって申し込み下さい。
あ　て　先
広島市佐伯区五日市町三宅　広島工業大学建築学科菅原研究室
〒731－51　TEL（0829）21－3121　内465

会　費　　4,000円　なお、懇親会は、工大同窓会と一緒に行います。
（当日御持参下さい。前売券も発売しております。）

〔案　内　図〕



交通機関

△広島駅より
広電バス－100米経由空港行き・平和公園下車
広島バス－吉島営業所行き・平和公園前下車

△バスセンターより
市内電車－宇品行き・袋町又は中電前下車
（100米道路平和大橋西詰南へ50m）

△広島港より
市内電車－紙屋町経由広島駅行き、又は己斐行き（中電前又は袋町下車100米道路平和大橋西詰南へ50m）

△広島空港より
広電バス－100米経由広島駅行き・平和公園前下車

五三会 活動報告

幹事長 下田卓夫（50年卒）

「五三会」会員各位様におかれましては、増々の御活躍のことと存じます。

現在、建築学科の卒業生は、本年度を含めると約4,600名程に達しており、五三会も今春の卒業生を迎えて24年目となりました。

来年度は「五三会」が誕生して、四半世紀を迎える年であるとともに、平成5年には、母校広島工業大学建築学科が設立されて、30周年を迎える年でもあります。

五三会では、会員各位の親睦とともに、母校建築学科の発展に貢献すべく活動しております。平成3年度の主な活動は以下の通りであります。

●「五三会コンペ」　建築家、岩本秀三氏を審査委員に迎え「川からの再生」のテーマのもとに大学生を中心とした多数の意欲的な作品が寄せられ、実り多きコンペとなりました。有難う御ざいました。

●「25周年記念行事準備委員会」設立　来年度五三会が25周年を迎えるに当り、各諸先輩方々から広く御意見を頂き、建築学科の30周年と歩調を共にした記念行事を行なうこととなりました。現在幹事会役員を主体とした準備委員会を発足致し、大学建築学科準備委員の諸先生方と具体化を目指し素案づくりを進めている段階であります。今後に向けて、実行委員会の組織づくり、記念行事の検討、会員各位の住所、連絡先の確認等、多くの御支援、御協力が必要となります。

つきましては、今後共、「五三会」への発展と充実を願って、尚一層の御理解と御協力、御参加をよろしくお願い致します。

平成3年度活動報告

1．会報誌「五三会」第19号の発刊
2．第17回五三会コンペの実施
3．25周年記念行事準備委員会の設立
4．五三会幹事会組織の充実
5．五三会会員増加運動
6．五三会会員住所録の整理

平成4年度役員

（会　　長）	三上明夫（㈱KAZ1建築設計工房）
（副 会 長）	森田洋生（広島市役所）
	上之博文（㈱LAT環境設計事務所）
（会　　計）	村上憲弘（㈱青木設計事務所）
	松本孝志（広島市役所）
（会計監査）	下　健蔵（広島県庁）
	三宅智之（広島県庁）
（書　　記）	梶山孝之（梶山設計）
	中島伸夫（㈱LAT環境設計事務所）
（幹 事 長）	下田卓夫（㈱アーバンプレーン）

五三会は、昭和58年度から終身会費制を導入しており、会員のみに会報を発送させてもらっています。会費未払いの方及び未加入の方は早急に手続きをお願いしたいと思います。下記五三会事務局へ御連絡下されば振込用紙をお送りさせていただきます。

〔五三会事務局〕
広島市佐伯区五日市町三宅二丁目1番1号
広島工業大学建築学科菅原研究室内
〒731-51　　TEL(0829)21-3121

五三会収支決算報告

平成２年度収支決算報告

◆収入の部　（単位　円）

繰越金（終身会費基金）	3,253,238
新会員会費	770,000
広告料	630,000
雑収入	6,524
合計	4,659,762

◆支出の部　（単位　円）

印刷費	607,133
郵送費	104,501
会議費	62,990
銀行送料	618
郵便局振替手数料	7,090
コンペ費	150,000
在学生援助費	0
バイト費	27,899
消耗品等雑費	40,373
雑費	74,184
繰越金（終身会費基金）	3,584,974
合計	4,659,762

平成3年度収支予算（案）

◆収入の部　（単位　円）

科目	小科目	金額	摘要
会費収入		750,000	75名×10,000
	新会員会費	750,000	
活動収入		650,000	
	広告料	650,000	
雑収入		5,026	
	利子収入	5,026	
積立金取崩収入		0	
	積立金取崩収入	0	
繰越金		3,584,974	
	終身会費基金	3,584,974	
合計		4,990,000	

◆支出の部　（単位　円）

科目	小科目	金額	摘要
管理費		470,000	
	総会費	100,000	
	会議費	150,000	
	バイト費	50,000	
	消耗品費	50,000	
	備品購入費	50,000	
	印刷費	40,000	
	通信費	20,000	
	雑費	10,000	
活動費		1,270,000	
	会報発刊費	920,000	会報発刊費内訳
	コンペ費	300,000	印刷費 650,000
	学術文化費	50,000	郵送費 270,000
			(900部×300)
予備費		500,000	
	予備費	500,000	学生部会助成金
積立金		2,750,000	
	積立金	2,750,000	
繰越金		0	
	繰越金	0	
合計		4,990,000	

広島工業大学建築学科同窓会
「五三会」会則

第一章　総　　則

第 1 条　本会は広島工業大学建築学科同窓会「五三会」と称する。

第 2 条　本会は本部を広島工業大学建築学科内に置く。但し、総会で必要と認めた場合に支部を置く事を得る。

第 3 条　本会は会員相互の交流を厚くし、かつ母校建築学科の発展に貢献することを目的とする。

第 4 条　本会は前述の目的達成の為に下記の事業を行なう。

(1) 集　　会
(2) 会員相互の連絡並びに共助に関すること
(3) 会誌及び会員名簿の発刊
(4) 母校建築学科に対する精神的、物質的援助
(5) その他本会の目的達成に必要な事

第二章　会　　員

第 5 条　本会は下記の者を以って組織する。

(1) 正 会 員　広島工業大学建築学科卒業生のうち会費を納入した者
(2) 準 会 員　正会員以外の広島工業大学建築学科卒業生
(3) 学生会員　広島工業大学建築学科在学生
(4) 客　　員　母校職員及び旧職員
(5) 名誉会員　本会の発展に貢献し、名誉会員としてふさわしいと総会で認められた者

第三章　役　　員

第 6 条　本会は下記の役員を置く。

(1)	名誉会長	置くことができる	(2)	会　長	1 名
(3)	副 会 長	2 名	(4)	会　計	2 名
(5)	会計監査	2 名	(6)	幹 事 長	1 名
(7)	幹　事	若干名	(8)	書　記	2 名
(9)	評 議 員	各卒業年度に若干名			

第 7 条　本会の役員は次の方法で決める。

(1) 名誉会長は総会をもって推す。
(2) 会長・副会長・幹事・会計・会計監査・書記・評議員は総会で正会員の中から選ぶ
(3) 幹事長は幹事の中から互選する。
(4) 幹事は総会の議決により正会員の中から委嘱する。

第 8 条　各役員はそれぞれ次の任務をもつ。

(1) 会　長　本会を代表し会務を統べる
(2) 副 会 長　会長を助け支障がある時は代理する
(3) 会　計　会計事務に当る

(4) 会計監査　会計を監査する
(5) 幹事長　会務を主掌する
(6) 幹　事　会務を処する
(7) 書　記　書記事務に当る
(8) 評議員　会務を評議する

第 9 条　役員の任期は一ヶ年とし再任をさまたげない。但し欠員は役員会にはかり補充し、これによって就任した者の任期は前任者の残りの期間とする。

第四章　顧　問

第 10 条　この会に顧問若干名をおく
(1) 顧問は総会の議決により適任者を委嘱する
(2) 顧問は会の諮問に応じる

第五章　会　議

第 11 条　会議を分けて定期総会、臨時総会、役員会及び事業委員会とする。
第 12 条　総会は最高の議決機関で毎年 1 回開く。臨時総会は役員会が必要と認めた時会長が招集する。
第 13 条　総会は次のことを決める。
(1) 会則の変更と改正　(2) 決算及び予算
(3) 役員の改選　(4) その他重要な事
第 14 条　役員会は会長が必要と認めた時招集し、次のことを決める。
(1) 総会に附議する原案　(2) この会の運営に関する諸事項
(3) 事業委員会の組織　(4) その他緊急事項の協議
第 15 条　事業委員会は必要に応じて幹事により組織し、第 4 条に掲げる事業についてその事務を処する。
第 16 条　会議の議決は会員の参会者の過半数をもって決定し、賛否同数の時は議長がこれを決定する。

第六章　会　計

第 17 条　この会の経費は会費、寄付金及びその他の収入をあてる。
(1) 会員は入会金と終身会費として、入会時10,000円を納入しなければならない。
(2) 学生会員は在学期間の会費として3,000円を納入しなければならない。
なお、学生会員の会計は本会計より独立させる
第 18 条　この会の会計年度は 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月31日に終る。

第七章　委 任 事 項

第 19 条　この会則に定めのあるもののほか、必要な事項は役員会においてこれを定める。

付　則

終身会費については、昭和58年度から施行する。

編集後記

会誌発行にあたり、御寄稿下さった方々、また、多数のスポンサーの方々にお礼を申し上げます。

今回は、特にテーマを決めず原稿をつのりました。

会員からの寄稿が、一つの大きな情報です。近況、作品、紀行文、意見、趣味等、何でもよろしいですから事務局までお寄せ下さい。お待ちしています。

尚、寄稿下さった方には、五三会より記念品を御送り致します。

「五三会」第19号　編集委員

大畠　耕司(50)　㈱エイエスシビルコンサルタント
☎082－295－1001

木下　和夫(63)　㈱近代設計コンサルタント
☎082－235－1515

〔連絡先〕

五三会事務局

広島市佐伯区五日市町三宅二丁目1番1号
広島工業大学建築学科菅原研究室内
(〒731-51)　☎0829－21－3121㈹

広島工業大学建築学科同窓会誌
「五三会」第19号

編集責任者	大　畠　耕　司
発行責任者	三　上　明　夫
企画・製作	ア　ク　ト　企　画
発　　行	平成4年3月24日